

現代において、社会はこれまでにない急激な変化の時を迎えています。めまぐるしく変わっていく社会を生き抜く力を身に付けるために、公立である府立高校に求められるものは何か。京都府教育委員会は、新しい時代において府立高校が目指すべき方向性や将来像を示すため、令和4年3月、府立高校の在り方ビジョンを策定しました。

大学の講義を高校で受けられるプログラムやオンラインで離れた府立高校同士をつなぐ遠隔授業など、ビジョンには新しい取組が盛りだくさんです。さらに、これまで取り組んできた普通科や職業系専門学科の特色化についても、さらなるパワーアップを目指します。

生徒の皆さん一人一人がそれぞれの個性と可能性を最大限に伸ばせるよう多様な選択肢を示すこと、地域創生において中心的な役割を果たすことなど、府立高校には

新しい時代の
府立高校の在り方ビジョン
を策定

「府立高校の在り方ビジョン」について、さらに深く知りたい方はこちら →



令和3年度 文部科学大臣優秀教職員表彰 被表彰者

【教職員】

向日市立西ノ岡中学校	事務職員	奥西 裕子
宇治市立西宇治中学校	教諭	大石 充士
八幡市立男山第三中学校	教諭	田中 三奈
京丹波町立和知中学校	養護教諭	吉田 芳子
綾部市立綾部中学校	教諭	藤林 淑子
京丹後市立網野中学校	主幹教諭	上田 真吾
京都府立福知山高等学校附属中学校	教諭	幸田美知代
京都府立洛東高等学校	技術職員	若田 清二
京都府立園部高等学校	教諭	光木 宏
京都府立宇治支援学校	教諭	相馬 美加

※在籍校は受賞当時の学校

【教職員組織】

海洋資源科栽培環境コース（京都府立海洋高等学校）



京都府立宇治支援学校
教諭 相馬 美加

「地域社会を学習環境として捉え、地域と協働した学習活動を積極的に取り組み展開することで児童生徒の生活の質を高め、よりよく生きる力の育成につなげる」という学校のコンセプトの

もと、開校時から学校全体であるいは各学部と連動して組織的に「地域学習」を推進しました。

現在は京都府スーパーサポートセンターで府民講座などの運営に手腕を発揮しています。

府教委広報

きょうとふの
教育

No.149

令和4年度春号

<特集>

- 令和4年度当初予算
- 府立高校の在り方ビジョン
- 文部科学大臣優秀教職員表彰
- 教育相談・修学支援

新年度あいさつ



京都府教育委員会教育長
橋本 幸三

昨年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受ける1年となりましたが、保護者や各学校の先生方には、子どもたちの学びの保障や健康管理、感染予防などに多大なご協力をいただきました。皆さまのお力添えに、あらためて感謝を申し上げますとともに、今年こそは子どもたちが元気いっぱい学校生活を送れることを願っています。

社会全体に目を向けますと、人口減少やグローバル化、デジタル社会の進展など、これまでにない大きな変化が訪れています。とりわけデジタル化については、コロナ禍で新たな生活様式が提唱されたことなどにより、今後も加速度的に進むことが予想されます。

小中学校では1人1台のタブレット端末が整備され、府立高校でも、今年度の新入生から、全ての学校で1人1台端末の導入が始まります。ICTを活用したオンライン学習等の充実はもちろんのこと、対面による協働的な学びなど、これまでの学校教育の良さを組み合わせたハイブリッドな教育を

進める必要があります。

また、新たな時代を迎える中で、魅力ある府立高校づくりを進めるために、「府立高校の在り方ビジョン」を策定しました。生徒の皆さんが「この学校に通って良かった！」と思える府立高校づくりに向け、このビジョンに基づいた取組を進めていきます。

様々な教育改革を積極的に進めていく一方で、長引くコロナ禍が子どもたちの心に与える影響にも留意しなければなりません。これまで以上に、心のケアや相談体制を充実させ、子どもたち一人一人に寄り添う教育を進めてまいります。

「第2期京都府教育振興プラン」で掲げた大きな目標である「教育環境日本一」の実現のためには、学校・家庭・地域の連携が欠かせません。子どもたち一人一人が「包み込まれている感覚」を実感し、それぞれの可能性を最大限発揮できるよう、引き続き尽力してまいりますので、本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

ひとりで悩まないで！

いじめられる、学校に行きにくいなど、悩みや不安が一人では抱えきれないほどあふれてくる場合があります。京都府教育委員会は、そのような悩みについて一緒に解決の方向を探っていきたくと考えています。

電話教育相談

ふれあい・すこやかテレフォン
(24時間受付)

075-612-3268
または 3301
0773-43-0390

メール教育相談

「メール教育相談 京都」で検索してください。携帯電話からも相談できます。

※携帯電話の場合、受診拒否設定を解除してください。

ネットいじめ通報サイト

ネット上でいじめを発見したら通報してください。

2 体罰専用電話
075-612-5013
(毎週水曜日 11:30~18:30)

来所教育相談

京都府総合教育センター(伏見区)及び北部研修所(綾部市)で、臨床心理士、精神科医などが直接お話をうかがいます。

巡回教育相談

お住まいの近くの教育局などに臨床心理士などが出向き、直接お話をうかがいます。

来所・巡回教育相談のお申込みは、「ふれあいすこやかテレフォン」にお電話ください。

家計が急変した世帯の
高校生などへの支援

失業や休業などにより収入が減り家計が急変した場合、修学資金の貸付をいつでも申請することができます。修学資金を返還している場合は、返還の猶予(返還の先延ばし)ができます。

また、失業などにより保護者など(親権者全員)の住民税所得割が非課税相当となった場合、返済の必要のない給付金の申請ができます。

詳細は、ホームページをご覧ください。お問い合わせください。

高校教育課修学支援係 TEL:075-574-7518

修学支援事業ホームページ →



発行：京都府教育委員会

編集：京都府教育庁管理部総務企画課

電話：075-414-5710

URL：http://www.kyoto-be.ne.jp/



令和4年度 京都府教育委員会の予算

令和3年度2月補正予算及び
令和4年度当初予算 併せて14か月の予算

総額 1,240億4,500万円
(うち事業費 170億2,600万円)

どんな取組を
していくの？

今年の予算の
ポイントは？

京都府教育委員会では、「第2期 京都府教育振興プラン」を着実に進めていくための予算を計上しています。これらの予算を元にどんな取組を行うのか、令和4年度の主な施策をご紹介します。

※予算額には再掲分を含みます。●は令和4年度から始まる事業です。

新型コロナウイルス感染症対策関係 (7億8,300万円)

■ 教育体制の緊急強化

- 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、これまでに引き続き、**教員の事務作業を補助する教員業務支援員やスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー等の配置・派遣を拡充**します。

外部・専門人材	内容	配置・拡充内容
教員業務支援員 (スクール・サポート・スタッフ)	校内の消毒・ 教員の事務補助	全ての小・中・高・特支に配置
スクールカウンセラー	児童生徒等の心のケア	未配置校派遣回数：3か月に1回→月1回 府立高校配置回数：月4回→月5回
まなび・生活アドバイザー	福祉の専門家	未配置校派遣回数：3か月に1回→月1回
心の居場所サポーター	学習支援や教育相談	すべての小中学校に配置

※半年間の措置とし、その後は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて検討

■ 学校衛生環境等の緊急対策

- 特別支援学校スクールバスの過密化を避けるため**運行を増便**します。
- 各校において、夏季・冬季に**換気を徹底した空調管理を実施**します。

豊かな人間性の育成と多様性の尊重 (8億1,900万円)

■ 特別支援教育の推進

- 特別支援学校に通う医療的ケアが必要な児童生徒に対し、**福祉タクシーなどの利用に対する助成や、看護師の配置により、通学時の安全を確保**します。(1人当たり年間80日程度)
- 児童生徒が急増している**特別支援学校においてホームルーム教室を増設**します。
(宇治支援学校・丹波支援学校・中丹支援学校)

学びを支える教育環境の整備 (43億6,700万円)

■ 働き方改革の推進

- **学校への外部人材や専門人材の配置を充実**させ、教員が子どもと向き合える環境を整備します。

■ 学びのセーフティネット

- 住民税非課税世帯に対して支給している「奨学のための給付金」を、**一人当たり年額2,000~4,000円増額**します。

■ 府立学校の施設整備

- 学校施設をより長く安全に利用し、**トータルコストの縮減を目指す予防型改修**を行うとともに、**府立高校のトイレ洋式化や老朽校舎の改修**を実施します。

■ 「府立学校特色化応援ファンディング事業」がスタート

- 「京都府母校応援ふるさと事業」をリニューアルし、**取組内容のプロジェクト化や応援希望額の明示**によって**事業の見える化**を図ることで、より親しみやすい制度とします。



豊かな学びの創造と確かな学力の育成 (48億8,800万円)

※DX…デジタルトランスフォーメーションの略。デジタル技術による様々な変革のこと。

■ 「教育DX」の推進

- 府立高校において、令和4年度の新入生から**タブレット端末を活用した新たな学びがスタート**することに合わせ、端末購入費用を一部補助するなど、**全国トップクラスの支援制度を創設**します。
- ICTを活用した学習支援やICT教育の人材育成を行う拠点「**京都府デジタル学習支援センター**」を設置します。

【センターの主な機能】

- デジタルコンテンツの配信などによる学習支援
- ICTの活用を先導するリーダー教員の育成
- 学校への技術的なサポート



- ICT機器の活用全般をサポートする外部人材「**情報通信技術支援員 (ICT支援員)**」を全ての府立学校に配置します。

■ 令和の教育指導体制の推進

- **小学校高学年での教科担任制を推進**するため、これまで配置している英語専科教員に加え、理科を中心とした専科教員を新たに配置します。(50人程度)

■ 国内バーチャル留学の実施

- 国内でのオンライン形式の研修プログラムにより、**コロナ禍でも海外の生活や文化に触れられる機会を創出**します。(府立高校生200人程度を募集)



健やかな身体の育成 (4,400万円)

■ 部活動の推進

- 教員に代わり部活動の顧問業務全般を担う外部人材「**部活動指導員**」を配置します。(中学校70人程度、府立高校10人→30人に拡充)



文化財の保存・継承・活用 (16億6,600万円)

■ 文化財の保存・継承

- 妙法院や大徳寺など、**国宝・重要文化財建造物等の保存修理**を行うとともに、**府指定文化財の修理や維持管理の経費を助成**します。



■ 文化財の活用

- 文化庁「日本博」と連携し、**丹後郷土資料館においてナイトミュージアムや特別展などを実施**します。
- 国宝・重文建造物の**修理現場の見学会や高校生・大学生向けの体験会**を実施します。